

関節痛、神経障害…病苦乗り越え15年

「膠原病友の会」 記念誌を出版

助け合う患者の「声」収録



記念誌「いちばんぼし」の編集にあたった会員たち（中央が小寺さん）



「あれほど病気があつた。また「なぜこんな病気になるんだろ。苦しみがあつたらあつたらあつた友を思う時、ふと考えてしまふ。でも、病気を通して知った生きるこの故に、人の温かさを言ふ」。どう生きるべきか自分に問いかけた」

という両方の患者など、ひとむきになって話を聞いた。また、医学雑誌には医師の講演を聞き、山田先生の講演を聞き、友の会の誕生と軌跡は、患者一人一人に「誕生力」を送る温かい思いが伝わっている。

また、医学雑誌には医師の講演のなかで、山田先生の講演のなかで、中核神経障害、消化器の粘膜の硬化など、全身多臓器にわたる症状が特徴。道成十五年から難病の特異疾患に認定されている。

「いちばんぼし」と記念大会についての問い合わせは道成十五 011-512-3233 午前10時午後5時。

膠原病 節のはれ、関節の痛み、中核神経障害、消化器の粘膜の硬化など、全身多臓器にわたる症状が特徴。道成十五年から難病の特異疾患に認定されている。

悩み抱えた 歩みつづる

の患者は約一万七千人(六十一一年現在)、道内約千八百二十二年現在。

記念誌「いちばんぼし」は、約百七十七。定価千五百円。内容構成で、会友の皆さんに「いちばんぼし」は、同支部を支えてきた人々の回廊をたどる思いがこめられている。

「患者は約一万七千人(六十一一年現在)、道内約千八百二十二年現在。」

記念誌「いちばんぼし」は、約百七十七。定価千五百円。内容構成で、会友の皆さんに「いちばんぼし」は、同支部を支えてきた人々の回廊をたどる思いがこめられている。

6/25 朝日新聞

道支部結成15周年 機関誌の記念号を発行

機関誌の記念号を発行



女性に発病が多い難病の膠原病。全国的に患者が激増する中、道内支部も今年で十五周年を迎える。機関誌「いちばんぼし」の記念号を発行し、この病気の理解を深めたいと、道支部の機関誌「いちばんぼし」が誕生した。皮膚科、膠原病科、腎臓科、心臓科、神経科、呼吸器科、消化器科、泌尿器科、産婦人科、小児科など、幅広い診療科で、難病の特異疾患として認定されている。

「いちばんぼし」は、約百七十七。定価千五百円。内容構成で、会友の皆さんに「いちばんぼし」は、同支部を支えてきた人々の回廊をたどる思いがこめられている。

病友の会

道支部結成15周年記念誌

「いちばんぼし」は、約百七十七。定価千五百円。内容構成で、会友の皆さんに「いちばんぼし」は、同支部を支えてきた人々の回廊をたどる思いがこめられている。

☆記念誌「いちばんぼし」のニュースは、各新聞で紹介され、たくさんのお電話が寄せられています。

6/21 北海道新聞

患者らの歩み紹介 膠原病友の会道支部 15周年記念誌発行

全国膠原病友の会北海道支部(小寺千枝子会長)は、向かって五十年を記念して、機関誌「いちばんぼし」を発行した。膠原病は、厚生省の特定疾患治療研究対象になってから二十二年、患者は道内約千八百二十二年現在。

「いちばんぼし」は、約百七十七。定価千五百円。内容構成で、会友の皆さんに「いちばんぼし」は、同支部を支えてきた人々の回廊をたどる思いがこめられている。

6/9 読売新聞



出来上がった記念誌に目を通す小寺さん

五周年記念大会(道支部)から「いちばんぼし」の発行まで、道支部を支えてきた人々の回廊をたどる思いがこめられている。

「いちばんぼし」は、約百七十七。定価千五百円。内容構成で、会友の皆さんに「いちばんぼし」は、同支部を支えてきた人々の回廊をたどる思いがこめられている。